

流域の概要

平成25年10月台風26号時の影響
【茂原市街地】



近年多発する豪雨により中流域の茂原市街地周辺で、河川の溢水や内水被害が生じている。

平成25年10月の台風26号では、河川が溢水した。これにより茂原市街地周辺では、床上320戸、床下183戸の甚大な浸水被害が発生した。主要道路は長時間に渡り冠水した。このことは緊急対策等の大きな支障となった。

また、平成24年8月の局地的大雨(いわゆるゲリラ豪雨)では、内水による主要幹線道路の冠水により市民生活に支障がでた。

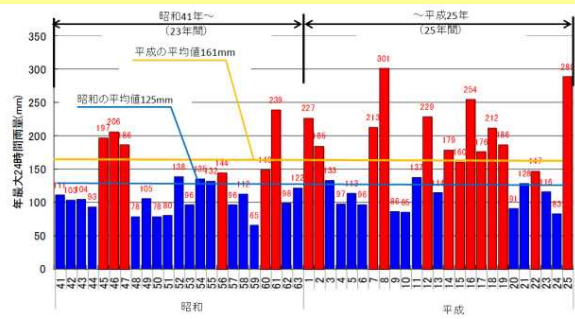
こうした浸水被害の状況を踏まえ、「100mm/h安心プラン」で対象とする降雨は平成25年10月15日～16日の台風26号(24時間最大雨量289mm、6時間最大雨量138mm、最大時間雨量51mm)とした。なお、この台風を対象とする整備により、平成24年8月6日の最大時間雨量61.5mm(既往最大)に対しても被害軽減効果は期待できる。

【年最大24時間雨量】

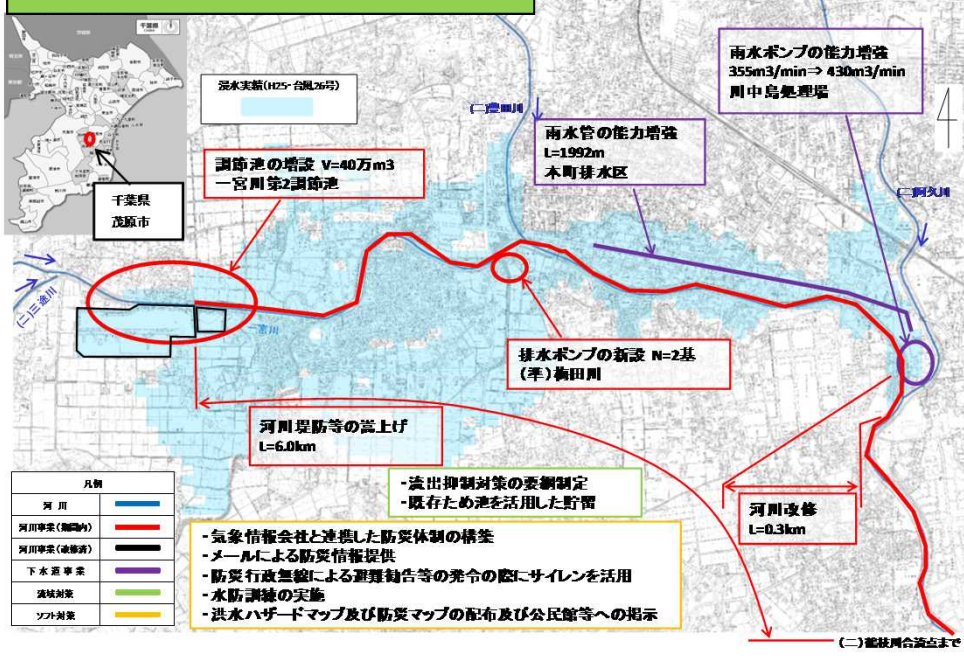
- ・昭和の平均値125mm
- ・平成の平均値161mm
- 市街地の拡大により、流出量が増大
→浸水危険度が増大
- ・一宮川流域の市街化率
H8年:16.7%→H23年:19.4% 約1.2倍

○河川、下水道計画

- ・河川整備(219mm/24h、127mm/6h)
- ・下水道整備(50mm/h)



一宮川流域茂原市街地安心プラン対策箇所図



【浸水被害の主な要因】

- 頻発する豪雨により、河川の氾濫、内水氾濫の発生の危険度が増大
- 地形的要因により、河川への排水が困難、下水道事業だけでは効果が限定的
- 市街化の進展等により、流域からの流出量が増大

⇒ 一方、都市化の進展等により、浸水対策に多大な費用と時間が必要

流域における浸水対策を関係機関が一体となり効果的に組み合わせる必要がある。

一宮川流域の総合的な浸水対策について、千葉県・茂原市・地域住民の代表からなる「一宮川流域浸水対策協議会」で検討し、関係機関が対策を実施

一宮川流域浸水対策協議会

組織	部局
千葉県関係	河川整備課、下水道課、長生土木事務所
茂原市関係	土木建設課、土木管理課、下水道課、農政課、総務課
地域住民	地元自治会

取組の概要

○集中的な対策の実施

- ・河川事業と下水道事業の連携により、浸水被害の危険性が高い市街地を対象に集中的に整備
- ・河川の改修、下水道事業による雨水管・雨水ポンプの能力増強、流域対策の推進(流出抑制対策の要綱制定、既存農業用ため池の利用)により流域全体で対策
- ・千葉県(河川管理者)、茂原市(下水道管理者、準用河川管理者)及び地域住民が連携してハード・ソフト対策、進捗管理等を実施

○対策効果の早期発現に向けた進捗管理

- ・関係機関、地元の自治会で組織する一宮川流域浸水対策協議会において各実施主体が報告等を行いプランの進捗管理・評価を実施

取組の効果

期間内に関係機関が対策を実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対して茂原市街地の床上浸水被害を軽減する。